



2024年6月1日発行

安全データシート (SDS : Safety Data Sheet)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称、品番 : 補修用スプレー スモークグリーン、LYZ07-020B

供給者の会社名称 : 株式会社 LIXIL

住所 : 東京都品川区西品川一丁目1番1号

電話番号 : 0120-126-001

項目2以降は、2頁以降を参照

安全データシート

1. 製品説明及び会社情報

製品説明

製品名 : 補修用スプレー
LYZ07-020B スモウクG(SG)(908X25309)

種類 : 硝化綿ラッカー樹脂スプレー
主な用途 : その他補修

会社情報

会社名 : ロイド株式会社
住所 : 〒152-0001 東京都目黒区中央町2丁目37番8号
担当者 : SDSチーム TEL番号:03-3793-3731
緊急連絡先 : 同上 FAX番号:03-3793-6720
作成日・改定日 : 2024年6月10日

2. 危険有害性の要約(1)

【GHS分類】

物理化学的危険性

火薬類	区分に該当しない
・可燃性/引火性ガス	区分に該当しない
・可燃性/引火性エアゾール	区分1
・支燃性/酸化性ガス	区分に該当しない
・高圧ガス	区分に該当しない
・引火性液体	区分2
・可燃性固体	区分に該当しない
・自己反応性化学品	分類できない
・自然発火性液体	区分に該当しない
・自然発火性固体	区分に該当しない
・自己発熱性化学品	分類できない
・水反応可燃性化学品	分類できない
・酸化性液体・酸化性固体	分類できない
・酸化性固体	区分に該当しない
・有機過酸化物	分類できない
・金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

健康に対する有害性

・急性毒性(経口)	分類できない
・急性毒性(経皮)	分類できない
・急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
・急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
・急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
・急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
・皮膚腐食性・刺激性	区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

呼吸器感作性	区分2
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分1
発がん性	区分2
生殖毒性	区分1A
授乳に対する影響	区分1
	分類できない

標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

区分1(腎臓、肝臓、呼吸器、血液、中枢神経)
区分2(脾臓)
区分3(気道刺激性、麻酔作用)

標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

区分1(血液、聴覚、中枢神経、腎臓)
区分2(肝臓、神経、呼吸器)

誤えん有害性

区分1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)	区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	区分1

ラベル要素

絵表示



[注意喚起語]

危険

〔危険有害性情報〕

極めて可燃性の高いエアゾール
 引火性の高い液体及び蒸気
 高压容器：熱すると破裂のおそれ
 吸入すると有害
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 皮膚刺激・強い目刺激
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 発がんのおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 眠気及びめまいのおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 臓器の障害、障害のおそれ
 長期又は反復ばく露による臓器の障害、障害のおそれ
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 水生生物に非常に強い毒性・長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

取扱注意

《予防策》

加圧容器：使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
 裸火または高温の発熱体に噴霧しないこと。
 熱／火花／裸火／高温体／直射日光の当たる場所のような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
 適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。
 取り扱い後はよく手洗いすること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 使用前に取扱説明書入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

《応急措置》

吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡すること。
 目に入った場合は多量の水で洗った後、出来るだけ早く医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
 衣服等に付着した場合はその汚れをよく落とすこと。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。

《保管》

容器を密閉して換気の良い涼しいところで火気、熱源から遠ざけて保管する。
 旋錠して保管すること。
 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
 水回りや湿度の高い場所に保管すると、容器腐食して破裂の恐れがあるので
 保管場所に注意すること。

《廃棄》

使い切ってから廃棄すること。
 内容物／容器を各都道府県／市町村の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成及び成分表

成分及び含有量(危険有害物質を対象)

成分名	CAS No.	含有量 Wt.%	PRTR法	備考
ジメチルエーテル	115-10-6	45.0~55.0		
トルエン	108-88-3	1.75	1種 #300	
キシレン	1330-20-7	1.4	1種 #80	
エチルベンゼン	100-41-4	2.1	1種 #53	
酢酸エチル	141-78-6	5~10		
酢酸ブチル	123-86-4	10~15		
n-ブチルアルコール	71-36-3	1~5		
シクロヘキサノン	108-94-1	0.1~1		
イソプロピルアルコール	67-63-0	1~5		
ニトロセルロース	9004-70-0	1~5		
メチルシクロヘキサノ	108-87-2	5~10		
エチレングリコールモノブチルエーテル	111-76-2	1.75	1種 #594	
酸化第二鉄	1309-37-1	0.1~1		
カーボンブラック	1333-86-4	0.1~1		
酸化チタン	13463-67-7	1~5		
プロピレングリコールモノメチルエーテルプロピオネート	148462-57-1	1~5		

4. 応急処置

- 目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
 出来るだけ早く医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭き取る。
 : 大量の水及び石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
 : 溶剤、シンナーなどは使用しないこと。
- 吸入した場合 : 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。
 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、
 暖かくし安静にする。呼吸が不規則あるいは止まっている場合には人工呼吸を行う。
 : 嘔吐物は飲みこませないようにする。直ちに医師の手当てを受けさせること。
 : 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、
 直ちに医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
 : 嘔吐物は飲みこませないこと。
 : 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診察/手当を受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂
- 使用してはならない : 棒状水、高圧水
- 消火剤
- 火災時特有の : 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
- 危険有害性 : 燃焼ガスには一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。
- : 内溶液は極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
- : 作業は風上から行き、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- : 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- : 指定の消火剤を使用すること。
- : 高温にさらされる容器は水等を掛けて冷却する。
- : 容器は高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取る。
- : 消火者は必ず適切な保護具(耐熱性着衣、保護眼鏡等)を着用し、有毒ガスが発生する為、空気呼吸等を装備する。

6. 漏洩時の措置

- : 作業の際には適切な保護具(保護手袋、防護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
- : 漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- : 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸着させて回収する。
- : 大量の流出には盛り土などで周囲を囲って流出を防止する。
- : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
- : 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- : 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- : 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱上の注意
- : 換気の良い場所で取り扱う。
 - : 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
 - : 周囲で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
 - : 裸火、高温物、発熱体に向けて噴霧しないこと。
 - : 静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
 - : 工具は火花防止型のものを使用する。
 - : 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
 - : スプレーダストや製品が付着した布、紙、ローラーなどが積み重なると自然発火する恐れがあるので、廃棄するまで水に漬けておくこと。
- 保管上の注意
- : 幼児の手の届かない所に置くこと。
 - : 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
 - : 火気、熱源から遠ざけて保管すること。
 - : 40℃以上になる所には置かないこと。
 - : 水回りや湿度の高いところに保管すると、容器腐食して破裂の恐れがあるので保管場所に注意すること。
 - : 施錠して保管すること。

8. 暴露防止および保護措置(1)

略記号 P: ppm M: mg/m³

物質名	管理濃度		許容濃度 ACGIH(TLV)	
ジメチルエーテル		P		P
トルエン	20	P	20	P
キシレン	50	P	100	P
エチルベンゼン		P	10	P
酢酸エチル	200	P	400	P
酢酸ブチル	150	P	150	P
n-ブチルアルコール	25	P	20	P
シクロヘキサノン	20	P	20	P
イソプロピルアルコール	200	P	200	P
ニトロセルローズ		P	3	M
メチルシクロヘキサノン		P	400	P
エチレングリコールモノブチルエーテル	25	P	20	P
酸化第二鉄		P	5	M
カーボンブラック		P	3.5	M
酸化チタン		P	10	M
プロピレングリコールモノメチルエーテルプロピオネート		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P
		P		P

8. 暴露防止および保護措置(2)

設備対策

- : 取り扱い設備は防爆型を使用する。
- : 換気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- : 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれぬような設備とすること。
- : 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用するなど作業者が直接暴露されないような設備とすること、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。
- : タンク内部などの密閉場所で作業をする場合には、密閉場所、特に底部まで充分に換気出来る装置を取り付けること。

保護具

《目の保護具》

《皮膚の保護具》

《呼吸器系の保護具》

《適切な衛生対策》

- : 取り扱いには保護眼鏡を着用すること。
- : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない手袋を着用すること。
- : 適切な保護衣(不浸透性の労働衛生保護衣)、保護面を着用すること。
- : 有機ガス用防毒、空気呼吸器、密閉された場所では送気マスクを着用する。
- : 密閉された場所では送気マスクを着用する。
- : スプレー作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
- : 作業中は飲食、喫煙をしない。
- : 取扱い後は手をよく洗う。

9. 物理的および化学的性質

	原 液	噴射剤(ジメチルエーテル)
状態	: (容器中) 液体 (開放時) 気体	大気圧下 ガス状、圧力容器内 液状
色	: 指定色	無色透明
臭気	: 溶剤臭あり	やや甘味臭
pH値	: 該当せず	該当しない
融点	: データなし	-141.5℃
沸点	: 77℃	-24.82℃
引火点	: (塗料液) 5℃	-41.4℃(密閉)
発火点	: 258℃	350℃
爆発限界	: (下限) 1.2% (上限) 12%	3.4~27.0vol%
蒸気圧	: データなし	1930mmHg(257KPa 0℃) 3800mmHg(507KPa 20.8℃)
蒸気密度	: データなし	1.59(空気=1)
密度(比重)	: データなし	0.661(20℃ 液体)
溶解性	: データなし	7.0g/水100g(18℃) 水に35wt%(24℃ 5気圧)
n-オクタノール/水分配係数	: データなし	0.2
分解温度	: データなし	データなし
その他		蒸発熱111.64cal/g(467.331J/g) 燃焼熱7.545cal/g (31.584J/g)

10. 安定性および反応性

安定性

- : 常用温度で缶内圧は約0.42MPa。

避けるべき案件

- : 高压ガスが入っており、40℃以上になると破裂の恐れがある。
- : 水回りや湿度の高いところに保管すると、容器腐食して破裂の恐れがある。
- : 周囲に着火源がないことを確認して、換気を十分に行うこと。

危険物有害反応可能性

- : 燃焼などにより、CO,CO2,NOX等の有毒ガスを発生する恐れがある。

その他の有害性情報

- : 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。
- : 樹脂成分は空気中で酸化し、発熱、蓄積される条件があると自然発火する恐れがある。

11. 有害性情報(1)

製品としての試験の実験は実施していない。

	急性毒性 (経口mg/kg)	急性毒性 (経皮mg/kg)	急性毒性 (吸収:蒸気)	急性毒性 (吸収:粉塵) ミスト	皮膚腐食性/ 刺激性	眼損傷性/ 刺激性
塗料原液	区分4	分類できない	区分4	分類できない	区分2	区分2
ジメチルエーテル	分類できない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	分類できない

	皮膚感受性 呼吸器感受性	生殖細胞 変異原性	発がん性	特定標的臓器 (単回曝露)	特定標的臓器 (反復曝露)	誤えん有害性
塗料原液	区分1			区分1(腎臓、肝臓、 呼吸器、血液、中枢神経)	区分1(血液、聴覚、 中枢神経、腎臓)	
	分類できない	区分2	区分2	区分2(脾臓) 区分3(気道刺激性、 麻酔作用)	区分2(肝臓、神経、 呼吸器)	区分1
ジメチルエーテル	分類できない	区分に該当しない	分類できない	区分3(麻酔作用)	分類できない	分類できない

12. 環境影響情報

製品としての試験の実験は実施していない。

	水性環境急性有害性	水性環境慢性有害性
塗料原液	区分1	区分1
ジメチルエーテル	分類できない	分類できない

- ☆ 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意すること。
特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。
- ・ 生殖毒性 : 情報なし
 - ・ 残留性 : ジメチルエーテル:BOD 4時間:0%、TOC 4時間:8%、GC 4時間:7%
(化学物質管理センターホームページ 既存化学物質安全性点検データ)
蓄積性がない又は低い
 - ・ 残留性・分解性 : 情報なし
 - ・ 生態蓄積性 : 情報なし
 - ・ 土壌中の移動性 : 情報なし

13. 廃棄上の注意

- 廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。
- 残余廃棄物 : 廃塗料、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- : 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
 - : 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。
 - : 廃塗料などを処理する場合には、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 中身を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

- 共通 : 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
- : 容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
 - : 運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷が無いように注意すること。
- 陸上輸送 : 消防法、労働安全法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
- 海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
- 航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。
- 国連番号 : 1 9 5 0
- 国連分類 : IMDGコード class2.1

15. 適用法令

- ☆ 労働安全衛生法 危険物 : 引火性物質、可燃性ガス
 - ☆ 高圧ガス取締法 適用除外項目対象 : 液化ガス、可燃性ガス
 - ☆ 消防法 第4類第一石油類 (非水溶性液体)危険等級 II
 - ☆ 有機溶剤中毒予防規則 第二種有機溶剤
 - ☆ 船舶安全法 危険物(高圧ガス)
 - ☆ 化学物質管理促進法(PRTR) 指定化学物質等
 - ☆ 危険物船舶運送及び貯蔵規則 IMDGコード class2.1(UN.No.1950)
 - ☆ 悪臭防止法 施行令第1条悪臭物質(トルエン・キシレン・酢酸エチル)
 - ☆ 労働安全衛生法 特化則 特別管理物質
特化則 第2類物質(エチルベンゼン 有機溶剤混合物)
- 第57条名称表示物質
第57条の2 通知対象物(トルエン・キシレン・エチルベンゼン・酢酸エチル・酢酸ブチル・エチレングリコールモノブチルエーテル・メチルシクロヘキサン・シクロヘキサノン・n-ブチルアルコール・イソプロピルアルコール・ニトロセルロース・酸化第二鉄・プロピレングリコールモノメチルエーテルプロピオネート・カーボンブラック・含水非晶質二酸化ケイ素・酸化チタン)

16. その他の情報

- 主な引用文献
- : (社)日本塗料工業会編 「モデルSDS事例集」
 - : (社)日本塗料工業会編 「原材料物質データベース」
 - : 溶剤ポケットブック
 - : 危険防災救急便覧
 - : 国際化学物質安全カード (I C S C)
 - : NIOSH 「RTECS」
 - : 原材料メーカー SDS
 - <<
 - : 支給シンナーメーカーSDS
 - <<

〔 注意 〕

このSDSは、現時点で入手した資料に基づいて作成しております。
当該製品の危険・有害性に関する情報および評価は原材料の情報から推定したものであり、必ずしも十分なものではありません。
ご使用者の責任において安全な取扱い方法をお決めください。
このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。
記載内容の中で含有量・物理的・化学物質などの値は当該製品の品質とは関係ありません。
この安全情報は国の規制を含む、(社)日本塗料工業会の基準に基づくものでありますが、地方自治体の規制情報は含まれていません。
安全操業や排出・廃棄等の場合に配慮すべきことは、当該自治体の規制に従い対処してください。